

「漢文」の特長と使い方

●本書のねらい

このテキストは、漢文入門期の高校生が、漢文を基礎から系統的に学習することができるようにつくられたものです。

漢文はもともと中国の文章ですが、日本人にとってなじみの深い漢字が用いられていることから、外国語としてとらえられていないことが多いようです。そのため、入門期に安易に取り組み、つまづいてしまう結果になりがちです。このテキストでは、漢文にうまくなじめるかどうかの分かれ道となる「漢文訓読法」に重点をおいて単元が構成されています。何度も繰り返すことにより、漢文の基礎を完全にマスターすることができるかと信じます。

●本書の特色

○このテキストは、「漢文訓読の基礎編」「基礎演習編」「読解演習編」で構成されています。

○「漢文訓読の基礎編」で、漢文訓読のポイントをとらえ、演習を繰り返すことにより、漢文を日本の文章として読む力をつけることができます。

○いくつかの学習単元ごとに「練習問題」を設け、既習事項を問題で確認しながら、先の単元に進めるようになっていきます。

○引用した漢文には、必要に応じて「注」や「書き下し文」を付し、理解を助けています。

●本書の構成と使い方

漢文訓読の基礎編

●要点のまとめ

訓読、漢文の構成、句法のポイントが簡潔にまとめられています。完全に理解しておきましょう。

●確認演習

要点のまとめの内容を理解し、確認するための演習です。つまずいたところは、要点のまとめを再度確認しておきましょう。

基礎演習編

●練習問題

既習事項の総合演習です。弱い単元は、前に戻ってもう一度学習しておきましょう。

読解演習編

ジャンル別の漢文読解問題で、ここまでに学習した事項の定着をはかります。

《解答・解説(別冊)》……解答例とともに詳しい「解説」、「書き下

し文」「口語訳」がついています。

目次

漢文訓読の基礎編

1	送りがなのつけ方	4
2	返り点(1)	6
3	返り点(2)	8
◆練習問題(1)		10
4	返読文字(1)	12
5	返読文字(2)	14
6	助字	16
7	再読文字	18
◆練習問題(2)		20
8	副詞・接続詞の用法	22
9	複合語・書き下し文	24
◆練習問題(3)		26
1	基本文型・修飾の関係	28
2	語句の省略・修辞法	30
◆練習問題(4)		32
3	句法―受身・使役	34
4	句法―否定・禁止	36

基礎演習編

1	故事成語(1)	68
2	故事成語(2)	70
3	論語	72
4	孟子	74
5	史記	76
6	詩	78
〈主な助字の用法のまとめ〉		80

読解演習編

◆練習問題(5)		38
5	句法―二重否定	40
6	句法―全部否定と部分否定	42
7	句法―特殊な否定形・不能と不可	44
◆練習問題(6)		46
8	句法―疑問	48
9	句法―反語(1)	50
10	句法―反語(2)	52
11	句法―限定・仮定形	54
◆練習問題(7)		56
12	句法―比較・選択	58
13	句法―願望・詠嘆	60
14	句法―抑揚・累加	62
15	句法―推量・倒置	64
◆練習問題(8)		66

Ⅰ 送りがなのつけ方

◆ 要点のまとめ ◆

① 送りがなのつけ方の基礎と振りがなのちがひ

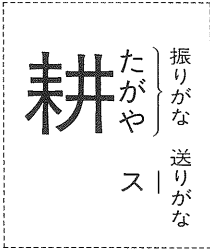
漢文には、日本語の「テ、ニ、ヲ、ハ」にあたる助詞がほとんどなく、日本語にある用言の活用もない。そのため、漢文を日本語に合わせて読むときには、助詞や活用語尾を補う。この補う言葉を送りがなという。

(1) 送りがなのつけ方の基本

- ① 漢字の右下につける。
- ② カタカナでつける。
- ③ 歴史的かなづかいで、文語文法に従う。

(2) 振りがなのちがひ

振りがなは、漢字の読み方を示すもので、ひらがなで表す。日本語の意味に合わせて、いろいろな読み方になるので注意する。



② 送りがなをつけるときの注意点

- (1) 用言は原則として活用語尾を送る。

例 歌(動詞)・青(形容詞)・可(助動詞)・使(助動詞)・稀(形容動詞)

※ 副詞・形容詞などから転じた動詞や、副詞・動詞などから転じた形容詞などはもとの品詞の語尾から送る。

確認演習

① 次の各文には、送りがなや振りがなのつけ方のまちがっている部分が一箇所ずつある。その部分を抜き出し、正しく直しなさい。

(1) 唯見長江天際流。 []

(ただ見る長江の天際に流るるを。) ↓ []

(2) 國破山河在。 []

(國破れて山河在り。) ↓ []

(3) 疑是地上霜。 []

(疑ふらくは是れ地上の霜かと。) ↓ []

② 「送りがな」について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の漢文に、()内の読み方に従って、送りがなをつけなさい。

① 天高馬肥。(天高く馬肥ゆ。)

② 日暮途遠。(日暮れて途遠し。)

③ 追者果至。(追ふ者果たして至る。)

④ 花落知多少。(花落つること知んぬ多少ぞ。)

【例】 悲・再・未・輝・甚

(2) 助詞は、漢文にはないので補って送る。

【例】 詩・是・心・聲、……(詩は是れ心の声にして……)

(3) 意味上のつながりから、使役や受身を表す助動詞がなくて

も、使役・受身を示す送りがないことがある。

【例】 足・食……「食を足らしめ」と読む。「レ」は上にかえつ

て読む記号である。↓6ページ参照。

向・北。(北に向かはしむ。)

管・仲・用。(管仲用ゐられる。)

(4) 副詞・接続詞・前置詞は最後の一字を送る。

【例】 復(副詞)・能(副詞)・乃(接続詞)・自(前置詞)

※①活用語尾を含む副詞・接続詞は、もとの品詞の活用語尾か

ら送る。

【例】 因・然・必

②誤読のおそれのないものには、原則として送りがない。

【例】 今(いま)・又(また)・昔(むかし)

(5) 会話・引用などの終わりには「ト」を送る。

【例】 項王曰沛公安在

(項王曰はく沛公安くにか在ると。)

(6) 再読文字(16ページ参照)で、二度目に読む送りがなはその

活用語尾を再読文字の左下に送る。

【例】 盍……(盍……ざル)

當……(當……べシ)

⑤月明星稀。(月明らかにして星稀なり。)

⑥去者日以疎。(去る者は日に以て疎し。)

⑦來者日以親。(來たる者は日に以て親し。)

⑧心泰身泰是歸處。(心泰く身泰きは是れ歸する處。)

⑨母曰、今蛇安在。(母曰はく、今蛇安くにか在ると。)

⑩衆人皆醉、我獨醒。(衆人皆酔ひ、我獨り醒めたり。)

(2) 次の漢文に、()内の読み方に従って送りがなをつけ、——線部の漢字には振りがなもつけなさい。

①大器晚成。(おおいなるうつははおそくなる。)

②年長色衰。(としかけていろおとろふ。)

③江碧鳥逾白。(こうみどりにしてとりいよいよしろし。)

④來時月上弦。(きたるときつきはじょうげんなりき。)

⑤露下天高秋氣清。(つゆくだりてんたかくしてしゅうききよし。)

高校ゼミ
漢文
解答編



送りがなのつけ方

(P 455)

- ① (1) 流ル ↓ 流ル (2) 破レ ↓ 破レ (3) 疑ハ ↓ 疑ハ

解説

(1) 送りがなはカタカナで書く。(2) 振りがな(漢字の読み方を示す部分)は、ひらがなで書く。(3) 送りがなは歴史的かなづかいに従う。

- ② (1) ① 天ツ 高ク 馬マ 肥ユ (2) ② 日レ 暮レ 途シ 遠シ (3) ③ 追フ 者ナリ

- 果ク 至ル (4) 花ツ 落コト 知シ 多ク 少ク (5) 月ツ 明シ 星ナリ 稀ナリ

- ⑥ 去ル 者ハ 日ニ 以テ 疎シ (7) 來ル 者ハ 日ニ 以テ 親シ (8) 心ニ

- 泰ツ 身ハ 泰ハ 是レ 歸スル 處ニ (9) 母ハ 日ニ 以テ 今ハ 蛇ハ 安シ 在ル (10) 心ニ

- 衆ハ 人ハ 皆ハ 醉ヒ 我ハ 獨リ 醒メ 醒メ (2) ① 大イ 器ハ 晚ク 成ル

- ② 年ハ 長タ 色ケ 衰フ (3) 江ミ 碧リ 鳥ハ 逾イ 白シ (4) 來ル 時ニ

- 月ハ 上ナ 弦ナ (5) 露ク 下タ 天ハ 高ク 秋シ 氣ハ 清シ (4) 來ル 時ニ

【解説】 (1) ④「花ツ 落コト 知シ 多ク 少ク」の読み方もできる。(2) ④「上ナ 弦ナ」のように、過去を表す助動詞「き」が使われているのは、文脈による。

【参考】 送りがなのつけ方は、テキストによって多少の違いがある。

【例】 日ハ、または日ク・以ッ、または以テ・復メ・復メ、……

要するに送りがなは、漢字が正しく読めればよいのであって、カタカナが一字多いか、少ないかはそれほど問題ではない。原則としては日本語の送りがなのつけ方に合わせるようにするとよいだろう。

返り点 (1)

(P 657)

- ① (1) 下から上へ返って読む場合に用いる。(2) 左下

【解説】 送りがな・振りがなは、漢字の右下に、返り点は、漢字の左下につける。

- ② (1) ① 入ル 門ニ (2) ② 讀ム 書フ (3) 握ル 手ヲ (4) 登ル 山ニ

- (2) ① ① ① ③ ② ② ① ③ ④ ④ ③ ① ③ ④ ④

- ④ ① ② ④ ③ ⑤ ③ ② ① ① ④ ⑥ ② ① ④ ③ ④ ⑤

- ⑦ ① ③ ② ⑤ ④ ⑧ ② ① ③ ③ ⑤ ④ ⑥

- ⑨ ② ① ④ ③ ⑥ ⑤ ⑩ ① ③ ③ ⑥ ⑤ ④

- (3) ① 其ハ 知ハ 如シ 神ノ (2) 隔テ 靴ヲ 搔ク 痒キ (3) 人ニ 無レ 有ル 不レ 善ナリ

解説

(1) 熟語の組み立ての一つに「動詞十目的語」の形がある。この形のもの、下から上へ返って読むと意味をとらえることができる。(2) レ点のついてる文字はとばし、すぐ下の文字から上へ返って読む。(3) ③は「人に、善でない者がいることはない」という意味である。

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②

- ③ (1) ① ③ ① ② ④ ② ④ ② ① ③ ③ ① ④ ②